

結婚難時代を生きるモンゴル人男性たちのライフストーリー —内モンゴル東部農村地域における事例研究—

烏英嘎 (中央大学)

中国農村地域の男性の結婚難問題に関し、人口流動により、若者の通婚圏が変動し、女性の結婚相手選択肢が増加したが、男性の結婚相手選択肢が不安定となり (王 2013)、また、女性の結婚意識が変容し、男性の人柄より経済面を重視し、男性側に負担をかけていると分析している (栗 2013; 譚 2014; 桂・余 2010)。次に、モンゴル族男性の結婚難に関して、若い男女は出稼ぎに出るが、男性は家業を継ぐため実家に戻るが、女性は都市の下層の男性と結婚して残る (張 2015; 呂 2018)。また、モンゴル族の女性は結婚相手の選択権を握り、結婚相手選択領域が変容していると述べている (玉 2008)。男性の結婚難に関して、このような客観的な事実分析や要因分析は大事であるが、この結婚難時代で、結婚当事者であるモンゴル人男性たちが自らの人生をいかに振り返り、自身の「結婚」「結婚難」を意味づけ・解釈しているのか、またその意味付け・解釈にどのような変化があるのかを明らかにしたいと思う。

筆者は2017年から内モンゴル通遼市 (旧ジリム盟) ホルチン左翼後旗 (科爾沁左翼後旗) モドトソム (茂道吐蘇木) の7つの村 (嘎查) の35人に調査をしてきた。本報告では、2017年の第一回目の調査時の対象者である未婚男性4人に2023年8月再び半構造化インタビュー調査を行い、その2回のインタビューデータを分析する。2017年未婚であった4人の男性が、2023年の調査時2人が結婚し、2人が未婚であった。第一回目の調査時、未婚男性たちに社会人 (学校を中退) になってから調査時に至るまでの出稼ぎ経験、理想な結婚相手、恋愛経験、結婚に至らなかった理由などを聞き、第二回目の調査時、既婚男性には、出稼ぎ経験、恋愛、結婚の経緯等を聞き、未婚男性には出稼ぎ経験、理想な結婚相手、恋愛経験及び結婚に至らなかった理由等について尋ねた。それにより、同一人物の年齢の変化による人生の物語から結婚難時代を生きるモンゴル人男性たちの結婚に関わる意味世界を把握したいと思う。

結果、①同じく結婚難時代を生きるモンゴル人男性たちでも自分の「結婚」「結婚難」に関して異なる意味付け・解釈をしていること、②同一人物でも未婚と既婚状態の語りが異なり、矛盾し、変化していること、③第一回目の調査と第二回目の調査の語りから、未婚男性たちの出会えるハードルと結婚のハードルがもっと高くなっていったことなどを見いだすことができた。

(キーワード: 農村地域、結婚難、モンゴル人男性)